

中澤 どうも、今日はお集まりいただきましてありがとうございます。関さん、どうも、あの、要望をお聞きいただいて、畑のお仕事とかあるとは思いますが、手塚の昔のことなんか知りたいということが出まして、関さんが一番いいのではないかという話になりまして、今日来れない人もいますけど、このメンバーで今日、お願いしたいと思います。

一同 よろしく願います。

関 なんか、どうも歳したって皆さんのご期待に添えるようなことお話できないとは思っていたんですが、では、まあ、知っている限りは。

西沢 ではお茶飲んでいただいて。でもマスクしているとお茶のめないけど。（笑）

関 こないだ、うちに来た人、今、訪問リハビリ受けていて、やってもらっているから、今日時間あるからお茶飲んでいけやと言って、でもマスク外しちゃいけないって言われているから、お茶いただけないって。

塩入 えー、そうなの？ 厳しいね。

中澤 では、我々のほうの自己紹介だけやってもらうかね。

塩入 こちら私からいきますかね、あの、手塚の歴史倶楽部というものを今年、発起人で作らしていただいて、会長さんと、顧問の方をお願いして、あと会員としてはあと2、3名居るのですが、下久保の塩入と申しますけれども、去年分館長をやらせていただいて、こういった活動にも興味が出てきましたので、お声かけさせていただきました。すわん洋装店の息子ですが、よろしく願いいたします。

大口 あの、大口信雄と申します。久一の息子でございます。65の定年で戻ってきました、もう5年になり、今年70になります。今年、公民館の館長をやらせていただいています。手塚のこと全く忘れちゃって、もちろん昔のこともわかんないんですけども、いろんな方に教えていただいて、勉強していきたいと、そういうふうにあります。よろしく願います。

中澤 中澤です。

西沢 西沢です。

関 それでは、あの、初めての方もおいでるから、ちょっと自己紹介しながら。あの、古い人間で、大正15年1月29日生まれ、生まれたときから我はこの家の跡取りだって言われて、金井だけに住んでいて、世間のことはあんまり解らない人間ですが、今年で、満94歳余3ヶ月になります。大正生まれですと、一級上で、すぐその市村忠雄さんが14年生まれで、その次が私が15年で、もうこれで大正はこの2人だけです。それと、あの、女性の方3、4人まだおいでるけど、男とすれば2人だけということ。

中澤 率直な質問でもいいですか？ 関さんは、戦争には行かれたですか？

関 はい、行きました。あのね、これも、もう年の瀬というか、えーと忘れはしない18年に始まったのだけでも、その当時、全部、お国のために、お国のためにということで教育を受けて、もう小学校高学年の頃から食糧増産に協力しろというようなかたちで、学校のグラウンドを起こして大豆作ったり、まだあの、いくらか運動する場所もなきゃいけないから、全部つぶしちゃう訳にはいかないから、周りの方だけやって、それであと足りない部分も、その当時もできていたんだけど、あの、バス道路って云う、山田へ通じる、あの道路、両側、掘って大豆撒いたりして、何にもかんにも食料増産、食料増産で、それから学校行けば、そのまんま、全員でもって前山へ行って、前山寺のあの、参道ずっと、こう、埋めるとこある、左側の大きい畑で、みんな、あの大豆だとか麦、いろいろなもの、芋とか作らせてられて、勉強なんかほとんどしなかったです。

それで、あの、そのようなことで、みんな男は兵隊に行っちゃう、ところが兵隊が足りなくなってきた、兵隊検査というのは昔の満二十歳でやるから、数えて21歳の年に兵隊検査というのがあったんですが、昭和19年に国でもって法律で繰り下げになって、19歳の歳、いっぺんに2年ぶん、純粹の満20歳と、それから数えの20歳と、いっぺんに2年ぶん兵隊検査して、あの頃はもう、中位な寝てる病人以外はほとんど甲種合格だってわけです。連れていかれたんですが、昔の甲種合格というのは優秀な体格の人でなければなかなか甲種合格なんていうものにはなれなかったんですけども、ところがその当時、もう兵隊さんがなくなってきたから、半分はおだてて、みんな甲種合格だ、甲種合格だつって、連れてっちゃったんですが、時に私も昭和20年の、だから20歳想定になった次の年ですが、ちょうど終戦の年の兵隊検査

で、だから、もう軍隊としては一番最後だったです。それよりも、それで終戦になっちゃってるから、もう兵隊はなくなるんだけど、20歳の2月に上田の市民会館、あの昔の市民会館ですが、そこで検査をして、それでもうその場で甲種合格って貼られて、それで帰ってきて、当時あの、まだそこに西塩田村役場が、今のあの、あそこの、やまびこのあそこにあった、ここでもって、全員がそこへ揃って、合格祝いだっというような話で村で一杯出してもらったんですが、それでその年のねえ、4月頃から、赤紙と言って、召集令状、届き始めて、みんなあの、個人個人のところとへ来るから、誰がどうだかぜんぜん判らないんですが、それでも連絡取れる範囲で、だいたい4月頃から始まって、7月までの間にほとんどの人が兵隊、軍隊へ行ったんです。で、わしがあの、私が6月の1日か。1日に新潟県の小千谷という、あの市があるんですが、そこにあの、部隊があって、そこへ入隊しろという、あの通知、だから赤紙で来てるから全部あの、列車なんか無料です。それで、その日にね、ちょうどあの、まだ、この今の精米所が公民館というか公会堂になっていて、ここ（分室）もあったんですが、ちょうどこの庭でもって、あの、俺ともうひとり誰だったか忘れちゃったがなあ、とにかく自分のことで一杯だったから、こちら東の方を向いて時の区長さんが、あれは誰だったかなあ、樋口かつとさんか、岩次郎さんかな、であの兵隊の人は、軍服はないけど、国民服っちゅうやつで、国防色の、ここに国旗の寄せ書きしてもらった、日の丸の国旗をここへタスキにして、それで脚絆巻いて、ここで、壮行してもらって朝、出発して行ったんですが、それであの、列車の都合で、俺はその、へえ直ぐじゃなくて、その次の朝の列車に乗るようになっていたもんで、けども、その壮行会の都合で、一緒に発って、出発したわけ。それで中塩田から電車に乗って行ったけど、乗る汽車は次の朝だから、あの西沢のりたか君の親戚が上田の田町にあって、のりたか君の心配で、おらっちの家が親類で、おぼさんだったな、うちに泊まれということで、そのうちで泊めてもらって、それで次の朝の指定列車に乗ったんですが、だからあの、入隊して一ヶ月間、軍事訓練を受けて、そしたらあの、夜、衛兵の動作をやれって言われて、初めてその、銃、鉄砲、全部これ天皇陛下から預かったもんだってことで自分の命よりも大事にする、しなければいけない位な教育を受けていたんですが、ちょうどあの、交代でその銃を持って、夜のあの、何というか、衛兵の、勤務をしると教わっていたわけ。で、誰が、銃は交代でみんな渡していっちゃうから、誰が持って返したかも忘れちゃっているけども、これを帰ってきたら早く寝ろって云うから、銃を掛けておいて寝たら明日の朝、貴様ら昨夜銃手入れしたかって言うわけ。教わってないし知ったこっちゃない、寝ただけども、それが銃手入れしなかったのが悪いっつーわけで、全員並べられて、ピンピンと、叩かれて、それであの、昔はその、何つうだ、懲罰つうので叩くのがもうものすごいみんな叩かれたわけだ。けど、もう制裁禁止令というのが出ていて、我々入った時は、杉の皮、皮の屋根、板作りのプレハブみたいな、こう軍隊の、衛兵所、隊ができていたわけ。それであの、両側に、真ん中にずっと広い通路があって、両側、ちょうどこの高さくらいかなあ、人間の丈よりもちょっと長い、畳の部屋が並んでいて、その上に棚があって、そこへみんなこう寝るんだよなあ。毎日（****）点呼といって夜、あの、この通路のほうへ向かって、向かい合いでこうって立つわけ。それで班長がいろいろ訓示あると教えたりして、そのあと教育係の助手がいろいろ教えたり説明したりして、ところがその、前の日のちょっと、その日の出来具合が悪いと、その教育係の上等兵が怒って、隣の部屋の班は、剣道の竹刀で、バンバンバンバンと叩いて歩いたが、うちの班は、あの、見ろ隣の班はつつって、それが見せられているけども、ぜんぜん叩かないわけ。どういう訳だろうなあと思ってたら、第一中隊第一班優秀班で、入口にこう、看板かかって、ほーだもんで、ぜんぜん叩かなかったね。みんな隣はビンタもらったり竹刀で叩かれたりしてたけど、うちの班はぜんぜん叩かれなかったなあ。そういうあの訓練をうけて一ヶ月経ったら招集兵が入ってきて、ところがあの、兵隊つつたって、何にも、鉄砲ひとつないわけ。それから拳銃って言って、正規の軍隊のあの支度は、大剣つつて拳銃を、拳銃じゃない銃剣か、銃剣をぶら下げて、ここへ葉莢のこういう、ぜんぶ本革で出来ているんだけど、玉入れをつけて、それが正規の支度なわけ。ところが兵隊だつたって、バンドも銃剣もなければ何にもねえでただ脚絆と革靴と軍服と帽子だけで、それもみんな天皇陛下から借りてるもんだから大事にしなきゃいけないっつうわけで、あの、石田甲子男さん、我々より一級上で、一年早く兵隊行ったんだけど、ある晩、寝る前にトイレに行ったところが、被ってた帽子後ろからパツとつかんで逃げてっちゃったんだなあ。さあ大変だっと思って追っかけるけども、なんたって向こうも本気で逃げる、我も本気で追っかけていたら、水の無いようなプールへ飛び込んだらだっ。

いいとこさ、この中で捕まえなきゃと思って、やったけども、そうしたらそれが捕まえそうになったらその帽子投げて、逃げちゃったんだよ。おかげでそれ拾ってきたから良かったが、もう員数つつうのは天皇陛下から預かったつうもんで、ちゃんと傷めたり、数が足りないなんていえば大騒ぎだったんだけど、でも我々の頃はもうそういう制裁はなくなったから、そんなに厳しくはなかったねえ。

それで一ヶ月訓練経ったら招集兵が入ってきて、今の話の、大きい体育館で、ゴザひいたようなところで一緒になって居たら、あの、上田から招集受けて、先生が、あの、そのとき隣にいて、それで、あの、手塚だつったら、そのときいろんな話から、あの、我々小学校のときに教わった、3年から6年まで教わった保野の山寺の館林先生の奥さんの弟というのが入ってきて、おい、そうだつて感じで、あの、そのときにね、一ヶ月訓練済んだら招集兵と一緒にすぐ前に家へ帰りたかって云うから、へえ行きてえつっただわい。そしたら行ってこいつ一わけ。おかしいこと言うなあと思ったら、行ってもいいけども、あの、機材徴収で、のこぎりや鎌や鉋や、なんかあったら持って来いと、その為にかへ行けと、で、そういう訓示が出て、じゃあいよいよ家へ明日行くっていう日に、招集兵の、館林先生の弟が、入隊する時に脚絆巻いてきているんだけど、それは私物できているわけ、だから、悪いがこの脚絆、家へ届けてくれやと云うわけ。それがその、行く時に西沢のりたか君のお婆さんの家の実家のじきすぐそばの人、家がそこだったもんでね、行ったんだけど、その当時、あの今の何にもねえから、無帯剣というのは脱走兵と見做されるつうところで、それで証明書をもらってね、無帯剣の証明書もらって、それで、まあ植でへ行って、電車で行って、松尾町歩いてきたら憲兵に捕まって、貴様一つうわけで、それが無帯剣の証明書出したらヨシつう訳で赦してもらたけれど、もう脱走兵と見做されるつうくらい、そのくらいもう何もなかったんですよ。それですぐこんどあの、その次の日、列車に乗れてって言われて、軍用列車で、一般の人はだれもねえ、兵隊つきり乗っていたわけ。どこ行くとも教えないし、何も言わないでただ乗れていうから乗っただけで、どうもだんだん西のほうへ行くなあ、であの、鎧戸って言って、今のあれはねえ、でも昔はガラスのここに、さんの、鎧戸という窓があったわけ、あのガラスの上へ、まだ、中側か、それで、腰のあるもので、こうやって指突っ込んでこうやって見て、おい、海見えるわ、瀬戸内海だとなつて、いやいよいよ、それじゃあ九州行って、それから船に乗って、中国へ連れてかれるぞおつうわけで想像しながら、乗って行ったら、岡山へ到着したら、あの、駅前がもう全部火災で、真っ赤に燃えてるだ。けどもここらは線路行くから、おい大火事だわなあなんて言いながらだんだん行って、そのうちに海底トンネルくぐった。ぽちゃぽちゃポチャポチャって、水たれてるから、いや判った、これ海底トンネルだおつう一わけで、いよいよ九州へ着いて、どこからか船で、中国へ行くぞーなんつって言って、そしたら、夜明けに、田んぼの中で降りろつう一わけで止まって、そしたらね、別府のじき手前の幸崎つう駅で、駅たってあの、駅すこし外れたようなとこの田んぼの中で降ろされて、それから歩いて、別府通り過ぎてだな、通り過ぎてる。歩いてジグザグした、こういう海岸っぱたジグザグしたとこ通って、幸崎つう一とこへ着いたんですが、あそこはあの、四国の何つーだっけかな、あれ、知多半島つうたか、愛媛県の細長一い出張ってるない、あれと一番近いとこの幸崎つう、場所で、精錬所があって、その精錬のくず、鉄くずをこう、めた巻き上げた、こういう海辺から上の高い丘みたいのが出来て、その上に、捕虜、中国人の捕虜を住まわせて、仕事に使った兵舎、板塀が飛び越せないような高い、2m50以上あるような大きい板塀で囲った中に、今のまた、杉の皮の屋根着いた兵舎があって、で、衛兵もあって、それから、風呂とか、いろいろあって、そこの科へ別れて入ったんだけど、やっぱりそれくらい一中隊の一班の（ ）の班で、班長が佐渡の人で、あと古参兵が3人ばかりと、そのほか全部、少年兵が10人くらいいたわな、それで生活始まったはいいいけど、何にもねえ、手ぶらで行ってるだから、そのうちにだんだん後発隊というのがうちの方からまたみんな後で送って荷着いた、そこに持ってった機材徴収したのこぎりや鎌、それが上等ないいやつはもって行かないから、切れないような、手じゃ切れないから、のこぎり。毎日あの、弁当たって何もないから、あっちのほうは孟宗竹、こんなに太い竹があるわけ。その竹の下、節で上このくらいのところで切って、それを弁当箱の代わりに詰めるわけだけど、白米じゃないほとんどコーリャンだからね、それ持ては、毎日山へ行って、このくらいな松の木、切れないのこぎりやで切って、ちょうど6尺くらいの竹に、（ ）切って、あと出しはどうやってやったかそれは知らないが、俺はとにかく行って毎日切ってはあれしてるつきりだったけど、そのときに、最初は何もなかったけど、10日くらい

経ってからかなあ、空襲警報があつて、それで、艦載機が飛んできたわけ、びゃーと。それでも朝、その山へ行くっていうわけで、隊列組んで、ちょうどこういう入り組んだところなので、小さいトンネルがいっぱいこう、あつたわけ。それでトンネルの入口のところへ行ったら飛行機来たというわけで、見たいやと、半分は見たいだし、どんなもんだろうなあと、思って空こうやって見上げたとなん、機銃掃射、びゃーっと、いやー、その音を聞いただけでも、自分のところへ突き刺さったような気持ちで、忙しくそのトンネルの中へ逃げ込んだけども、そのときに山下剛君が歩兵隊で、小学校の校舎が営舎になって、学校にいたわけ、で、敵機来たというわけで窓から覗いて見てた。そこへ機銃掃射ば一と来てね、3人即死。少年兵。いやーそれあの、毎日あの、命で、会報っていうのが出るもので、その受領に、班長からいつかって、毎日夕飯済むと、命令会報受領つって、班に言っておいて、行っちゃうわけ中退の方へ。そうすると機銃掃射で毎日こんど始まるから、あの、電線当たったり、そこらして停電して、ここ山の上の兵舎だから、水が上がってこないわけだ、ほーだから使役だ一って言われて、みんな使役であの、一斗樽みたいなどころへ水くんで、二人で、真ん中へぶら下げて坂道だから、まっすぐ登れないから、横になって二人で、登ったり、それから、水ばかりではなくて、いろんな食料一切、毎日のように使役、使役って言っては夕飯済むと、それ取りにいったり、昼間は山へ行って仕事だから、そんなことやっていたら、その板がこんど、製材済んで、また戻ってきて、自分だれが切った木で、こんどは板で防空壕を作っていたわけ。裏山へ行つて、毎日スコップで、防空壕掘つて、そこへ板をおつけたりして、で、それも作業中に空襲警報、敵機飛んでくるから、空襲警報かかるとすぐ防空壕へ、半分作りかけのような防空壕へ飛び込んではしゃがんでいたけど。それで1ヶ月経ったら、ちょうど終戦の日も朝、山へ行つていったら、それでお昼に帰つてこいという命令が来てね、それで、8月の15日にみんなで帰ってきたら、並ばせされてて、今日これで終戦になったと、で、兵隊のアメリカ兵が来て何やるかわからないから、兵隊は憎まれるから、兵隊ではない、軍服のところへみんなこういう、階級章をつけていたわけだこの襟に。星1つ2つ3つとか（ ）とか、そういうのみんなむしったり、とにかく、みんな私物の国旗なんかの、寄せ書きの国旗、そういうもの全部、大きい穴掘つておいて、みんな燃されちゃったわけ、それでも、兵隊の、まあ服なんか燃しちゃったら着られないから、階級とかそういうものなくなったり、一番残念だったのは、工兵隊だったので新潟県へ行つて、いろんなあの紐の結び方、ロープでこういうような木をいろんな格好に組んだり、紐の結びかた、珍しいもの教わつてみんな私物の手帳へ書いておいたけど、その手帳がみんな燃しちゃったからね、もうぜんぜん解りっこなしで終わっちゃったけど、そしたらデマ飛んで、関門海峡爆破されちゃつてて汽車通れないの、船は無いの、だが、見えるからね、（ ）デマあつたからそんな話してたんだ。とにかくいつ帰れるだかもどんなだかもわからないし、そうこうしているうちにちょうど9月へ入つたとたん台風来て、それで、その、別府のほうへ行く道路、土砂崩れ何箇所もあつて、毎日こんどは道路へ土砂崩れのやつを片付けに、毎日弁当持つてはその仕事に、土方に行つてたわけ。で、9月の半ばになったら、家へ帰れるようになって、そのときに今で言えば退職金で、120円だかどのくらいだかもらつたかなあ。全員に、全員というか階級によって違つただろうけど、我々一般の兵隊は何も解らないから、ただ、もらつただけで、現金でもらつて、それで来て、次の年、緑屋で1ヶ月入湯したが、100円で少し余つた。

軍隊、その、よそへ、中国へ行くなんてところへ乗る船なかったよね、もう。ただ軍服と、軍隊の靴、もらつた靴と、脚絆と、毛布はどうたつてかなあ、持ってきたか置いてきたか忘れちゃつたが、みんなあの、畳のところへ毛布で、こうくるまって、ずら一と並んで寝ただけだね。その教育中に、今の、いじかめるために、整頓して積んであるの、訓練で外へ出ていって、帰つてくると、嵐があつて、みんな落つちゃつたから片付けろって言われて、わざわざみんな落としてぐっちゃぐちゃにしてあるの、拾つて集めて、自分のぶん、きちんとそれでも、畳んだって筋までぴしと揃わなければいけないからなあ、それでまた、棚へのつけて、まごまごしていると怒られて（ ）早いって、きちーといかなきゃいけないが、それがまた早い人は器用だからきちんとうまくできるし、遅いのはもさもさしているのに限つて、きちんこう、揃わないんだ。だからまた怒られてしまう。それでもえらいビンタはもらわなかったな、俺の班は。あの、その戦争が激しくなることは、もう兵隊、職業軍人、兵隊ほかに仕事ないから、みんな職業軍人で軍隊いっちゃつたわけだなあ、だからもう、同級生だけ堰口

の原田治明さんの弟、同級生がいたけど、やっこさん現役志願して陸軍へ行つただけど、途

中で、1年位1年くらい経ったころ、休暇で家に来て、それで遊びに来て話したが、まあしょっちゅうビンタもらった何だかんだっていろんな話は聞いたけど、話聞いているより俺の場合はぜんぜんそんなビンタもらわなかったない。ただ、夜、今の話の、衛兵の任務で、銃手入れしたかって言われてして、寝ろって言うから寝たのに、銃手入れ、忘れもしない、怒られて、はたかれたっきりで。なんで叩かれたかわからねぇよ。(笑)(本当だね)

自分が悪いでも何でもないので、寝ろっていうから寝た。そしたら朝怒られて。軍隊生活の教育なんてものは、そんなもんだっけな。上官の名は「朕が命と心得よ」軍事勅令にあるだからな。

中澤 そうですね。

関 軍人五箇条つつって、ひとつ軍人は…、って、すぐそういうの、それ暗記してて、ときどきこうやって、言えと言われる。五箇条、言わなきゃいけないわけだ。まあ軍隊生活は、とにかくそんなもんで、本当に俺が一番最後で、もうそれで兵隊検査もなければ、終戦で終わっちゃっただけだからな。

中澤 このところに武運長久大東亜戦争必勝と、まだ書いてあるね。

関 ここで、俺もね、終戦のとき5歳だったもので、ここで歌うたってみんなでバンザイやって送り出したっていうのひとつだけ覚えているんだけど、誰だったかちょっと思い出せない。早くにはね、まだ昭和18年頃は戦争始まってまだの頃は召集令状来て行く兵隊様を小学校で十人のお宮のあそまで、みんな送ってたんだ。学校中でみんなで行っちゃ、ご苦労さんつつてな。で、そのうちに慣れっこになっちゃって、そこらそんなになくて、こんどは各集落で、こういう公会堂で見送ってもらったわけ。

中澤 うちの親父も翠川さんと一緒に写ってる写真あるね。

関 ほお

中澤 翠川藤十郎さんと。背の高いのと、背の低いのと。

関 あ、着いて一週間、10日くらい立った頃かな、後発隊が送った荷物が、神崎の駅に着くから、受取に行けと言われたわけ。ところが俺の班、班ていうか誰も、俺ひとりきりで後は知らないから、俺が行ったんだけど、他所の兵隊さんはタバコ持ってきていると言うから盗んでこいと言われたって、それで箱を見てタバコ入ってそうだって手を突っ込んだらあってね、みんな盗んでいくのに、ごがねるのは俺も言われてもこないが盗んでいかずと思って俺も20本くらいこうポケット盗んで入れてきたわけだ、() たばこ吸っちゃいけないことに決められているからね、さてな、弱ったな、どうやったらいいかなあと思っていたら、風呂当番の人が、そうだ、わかってたんだけど、いまの翠川藤十郎さんと、なんかの関係で知ってた、知ってるっていう人が、傍陽の人だと言ったが、いて、盗んでこいと言われたが、持ってはきたけど、吸えないから、くれるわいて、そこでくれちゃったがね。

西沢 あまり叩かれなかったのは、自分たちの班が優秀な・・・

関 優秀班で最初からレッテルついた班へ入ったわけ。だから、隣の班は見ろって言われて、竹刀でポンポンポンと叩かれるの見てはいるけど、うちの班はぜんぜん・・・

西沢 それは、優秀班だっていうことがつけられたのは、どういう経緯で、そうつけられたわけですか？

関 それは解らない。

西沢 甲種合格のときにそうなっちゃう、もう振り分けられちゃうわけ？

関 どういうことかなあ、最初から・・・あのねえ、

西沢 経歴なにか調べられている・・・

関 そうそう、だぶんそれだ。あのね、昭和15年に塩田公民学校高等科、昔は633じゃなくて62制だから、高等科卒業しているとみんな、長男は別として、ほとんどの人は、若干うちに余裕もなければだめだけど、高校へ、今の高校へ行ったわけだ。ところが、ひとつのクラスで2人くらい、よくして3人くらいしか高校へは行かないわけ、ほとんど、我は跡取りだというようなことで、農家の出身は公民といって、あそこで() 勉強をしてきたんだけど、そのとこの学校へ入ったときにさ、級長と副級長というの、もう入学のときに決まっていたわけ。だから、今の話の、その選考して学校同士の話し合いで、決めてあったんじゃないか。だから軍隊もその() 別に試験があったわけでもないし何でもないし、ただ割り振られたからそこへ行っただけで、そしたら、第一中隊、第1班優秀班と、入り口に看板かかっていた訳だ。

塩入 日頃から品行方正にしていると万が一のときにいいことがあるんだね。

関 まあしょうがないけど、いろいろやって、班長当番というのがあって、班長のとこへまんま持っていったり、班長具合悪くなって入院しちゃってさ、それで医務室と言って、学校のグラウンド、（ ）広いグラウンドの向こうのはじのほうに、ぽつんと、あの建物があって、そこへ入っていたわけ。は一、こうやって、お膳で、ちゃんとかけて、班長の部屋まで持って行って、食べさせてきただが、そしたら班長、もうどこかで、あの今の話、（ ）一緒になってるっていうの班長は判っていたんだなあ、我々はそんなこと知らないから、そしたら珍しく班長、タバコ吸うかって言うから、吸うって言ったら、それ吸えって言って、一本タバコもらって、そこで吸ってきたけど、ふつうの兵隊はもう、外泊にうちへ行くときは持っていった方がいいが、少し（ ）もう禁止、無いんだからタバコ、吸いたくたって。まあいいわい、兵隊の話は。本当にこれで、俺が最後ということで、本当の軍隊というのは知らなかったな。

西沢 いずれにしても内地で終わったんですね、内地勤務で。

関 それであの、後発隊が後発隊が来るときに、広島へ原爆が落った後に来たわけ、それでそこを通ってきたわけだ。列車で。それで、とにかく、まあ凄いもんだわい、全部焼け野原。聞いてはいただけ、ところが終戦で帰ってくるときに広島通ってきた。まあ向こうの街はぜんぶ燃えちゃって何もなくて、向こうのほうの山の松の木もみんなま黄色になってたね。枯れて。ただ、だけど列車に乗ったままこうやって通ってきただけだから、だけしか分からなかったけれども、それから後で旅行で2回ばか広島へ行ったから、だんだん解ってきたけど。

中澤 線路やなんかは曲がったりはしていなかったんですね？

関 ああ。それは。駅は燃えたかなんか知らないが、駅は良かっただ（ ）駅のほどないと。さて、手塚水道、金井水道ですが、これ、あの、年号は覚えていないけど、今でもあるけど、俺の家のじき上に、1反歩で7枚だかの田んぼがあるわけ。手塚600番地というちょうど良い番号。それで、そのその隣250坪ばかりの畑があるわけ。で、その畑の隅、南側のところに井戸がある。昔からの。ところが1メートルくらいしか離れていないんだなあ、その井戸と。それで、ただ畑、そこは畑は桑畑だけれども、こっちは田んぼで、ただ畑の中に井戸があるんだが、水、そんなに豊富じゃないけど、もったいないがなにか使いみちないものかなあと思って考えたときに、何だっけな、今はどこへ行っちゃったかわからないが、上田の、あの駅の北側のところに、石井というポンプ屋があったわけ。

中澤 あ、あった。石井。

関 そのの、知り合っただかなんとか知らないが、水道の話はじまってきて、パイプ、エスロンパイプというのができたところだからね、これ使って、それじゃあ、サイホンの格好で、水道できないもんかなあって。それでポンプ屋と聞いたら、ええできるわいって言うわけで、それじゃあ頼むかなあっていうことから始まってね、でも俺っていうわけにいかないし、前のオッサン、池田（ ）さんと話して、じゃあやらざあっていうわけで、二人で井戸からサイホンの原理でエスロンパイプ、このくらいの自家用のパイプだから細いものだが、それで水道ひいたわけ。それで、その井戸の水の湧き具合なんてそんなこと判らないから、とにかくあの、ひねれば出るからこうやってやればいいし、温水タンクまで、ポンプ屋が勧めるから、屋根へ温水タンクも付けたらしたら、いいんだあ、これは良いぞと思っていたら、そのうちに水足りなくなっちゃって、水出なくなっちゃって、さあ弱ったというわけで、それからそう、田だから良いよ、田へ水入れるわいって言うわけで、で、田へ水引いて、田からチョロチョロと、1メートルくらいしか離れていないから井戸へ水を落として、それで使っていたわけ。そうしたら金井の衆がみんな羨ましがって、金井じゅうでまとまれば、使ったっていいんじゃないかなあというわけだ。小竜王の水をね。使って金井水道やるだねえかいと新しく始まってきて、ちょうどだから、俺が作って2年くらい経ったときだなあ、話まとまって、金井でやれっていうわけで、それで、あの、忙しくまた石井ポンプに材料頼んだりして、水槽を当時流行った酪農で、牛のエサを入れるコンクリのこれくらいの、サイロ、青草、麦、それにもろこしとか、そこへ詰め込んでみんな、酪農全盛時代で牛飼ってない人は一人前じゃないくらいのあれで（ ）みんな牛飼って絞ったわけだが、そのサイロのコンクリであれ、直径2メートルの上あるか、こんな大きい、三段重ねで、みんな牛のエサをサイロで作ったわけだけど、そいつを水槽に作ったわけ、三段に。それで、とにかくまあ早くやりたいて誤で、硬化期間というのがあるもんだわなあ、コンクリには。ところがそんな勉強なんてしないから、とにかく早く作ればいっていうわけで、サイロ作って、まだ完全に硬化、固まらないうちに水入れたわけ、そうし

たらパンクしちゃって、それで、また、全部じゃなかったから、（ ）のほう、2つくらい、まあ頭のへんから割れちゃったんだなあ、またその上作り直してサイロ作って、それで今度は、まだ失敗しないように少し硬化するまで待ってて水溜めて、そしたら良くて。で、金井水道で始めたわけ。ところが冬季間、渇水になると水足りなくなっちゃって、水の計算なんてことやりっこなしでやっただから、それで、仕方がないから今度は本竜王の水、あの、エスロンパイプじゃなくて、柔らかいビニールのホースで、あそこ、100Mなんてなかったな、7、80メートルのどこ通ってきて、途中でつないで、それで水槽へ入れたが、それで水は足りていたわけ。それで、2年くらい経ったら今度は手塚の人たちが羨ましくて、寺裏の水使って、水道やるじゃないかって話始まってきたわけ。だから金井水道やるまえに俺と前のオッサンでやって、2年くらい経って、金井水道がやって、また2年くらい経って手塚水道、それで手塚水道の寺裏の水やるって言ったところ新町が仲間になってくれという話になってきて、それで、いろいろな研究の結果、新町も入れてということで、あのときに大金にかかわるからと言って、なにか材木、どっか山少し売って、金井は用ないからってことで配分金もらったわな金井は。他は水道の関係でみんな使うから、直接はもらわなかったけど、金井のひとは、どれくらいかな、1000円くらいかな、そしたらあの、とにかく初めてのことに金かかるからということで、御岳さんも松、どんだけの溝中の人に松売った銭、分けてくれたけど、それで、手塚水道が始まったのはいいが、また渇水期に水足りなくなっちゃって、寺裏の水だけでは足りなくて、新堰へ水連れてきて、とか、お宮の近くから（ ）またポンプアップで、今度は本格的なあの、水槽と、あれが、殺菌装置まで作ったんだなあ。金井は本当の簡易水道だから、そんなものなしで、サイロだけでやったんだけど、こっちの手塚水道は殺菌装置まで作って、やったけど今の水、足りなくなっちゃって、新堰から水を上げて、それで賄って、それもちょうど2年くらい経って、今度は県営水道が始まってきたわけ。

西沢 いま竜王へ行くとところに金井水道の残骸がありますが、あれがサイロ？

関 あれがサイロ。土でこうやって被せてあるから、あそこにサイロがあるわけ。直径2メートルくらいで、深さが5メートル。

中澤 ああそんなに深い？

関 3段重ねだから。1mこれくらいのやつを型枠で、一枠でコンクリ打って、仕上がったら、少し硬化したらそれを型枠またはめて、

西沢 四角？

関 丸。

西沢 円形ね。

関 厚さが

西沢 15センチくらい？

関 15センチまでは・・・

西沢 鉄筋も入っているんですか？

関 鉄筋入れないの。

中澤 もうでできてるやつですよ？

関 いや自分たちでコンクリ打ち込んだわけ。鉄板で型枠できてて、合ってて、自治会の衆みんな使って、作ったわけ。

西沢 円形に？

関 円形に。

西沢 ベニヤ板みたいなもので？

関 いや鉄板。

西沢 ああ鉄板で

関 できてて、買ってきて、

中澤 ああ型枠ね。

関 みんな共同で、みんな（ ）お手伝いしながら、今日はこのうち、今度は仕上がったからこっちのうちというように、

西沢 ああそうですか。途中水足りなくなる前は、なにか、そのそばにあった井戸から水を引いたわけですか？作ったサイロのそばに井戸があって、そこから水引いたわけ？

関 いや、金井の水道は小竜王を引いてきたわけ。

西沢 はじめからね。

関 はじめから。それで（ ）使ってところが、冬季間か、渇水になって、水足りなくなっちゃって、それで本竜王のやつを小竜王へ行くカーブの手前のところ繋いで、それで使っていたわけ。

西沢 小竜王というのは行く前の、あの角のところだね？

関 角のところ。

中澤 三角のだね。

西沢 ちょっとだけ手塚の敷地があるところだね。

関 そうそう。

西沢 あそのこ水を使っていたけど足りなくなったから、また曲がって行った本竜王の水をひい

関 あの本竜王すぐここ下ってきて左へ曲がる、そのカーブのへんから。あそこにお参り道があって、そこへ掘って、あの野天、裸でビニールホース繋いで水補給してたわけ。それは掘ったのではなくて、ただ裸でこうやって、這わせておいた。こっちの手塚水道は、水槽こっちのほうが高いから、なにかポンプアップで（ ）俺は知らないけども、上へ上げた。あれも計算したからではなくて、その当時の水量、寺裏あたりの水は渇水期になるとえらい少なくなってしまうから、それで、最初の頃はたくさんあったと思うけれども、結局水は足りなくなっちゃって、上げたんだ。だから手塚水道は金井を抜かして、あとみんな自治会で、義一郎さんが自治会長の頃かな、ひろしげさんがたぶん副で、こうだと思うがなあ、その人達が役員で、要はノータッチだから、こっちのほうはちょっとわからなかった。

西沢 県営水道になったのは昭和38年に工事が進められて県営水道になったっていうふうに手塚誌には書いてあるね。

関 だからそれから2年ばか前が金井で、それからまた2年前が俺と前のオッサンのサイホンの水道だわい。

中澤 県営のあれのときは、道掘ったの覚えてる。県営じゃない、手塚水道か。

関 あ、それから、ありわさのあれ。

中澤 沢山の池？

関 樋口さかえさんが教えて、何か、どっかのイベントのときにありわさの実演みたいなことをやってみせたのではないかい？あれ、あの俺が覚えているのは、俺が小学校、終わって、高等1年の頃だなあ、いちむらたまみさんが良い声するからって言って、音頭取りに（ ）やったことある、学校、だから、俺が高等1年、2年でたまおさんが卒業してたということだ、だから13、4年の頃だな、ありわさの最後は。

中澤 沢山の池できたのが13年だね。

関 11年だかに始まってね。なんでもその頃、その前に金井の池でありわさやったことあるの。それ、俺は小学校5、6年の頃だな。ほとんど金井の人たちだけでやって、あの、そのとき泥揚げもやったも。それで今の池田悦男君のおじさんが、ひさおっていう人がいたんだけど、泥揚げにその、今でもその小屋にあるけど、このくらいの幅広い板あるじゃない、手塚の、栈橋に使う。確かあっちの建具小屋の方に

西沢 あ、この裏にある大きい板ね。

関 これくらいの幅の長い板ね。あの板に滑らないように縄を巻いて、オニザルへ縄をこういうふうになって、天秤で両方へベト入れて、こうやって担いで栈橋で、池の中からこう斜めにかけておいて、上げてきて、今（高橋くんの）駐車場に置いてある、石垣下の、あその俺のうちの（ ）けど、端っこに三角の一段土手下にあった畑があるの。その畑へみんな1メートルくらいの長さでずーっとつなげて、上の畑と同じに担ぎ上げたベトで埋めちゃって、そのあたり俺が（ ）てからごぼう作ったらまあずいごぼうができてない、こんな太い、こんな長いのですが入らないねえだ。

西沢 （ ）溜まっていただね。

関 だから、今でも覚えてるよ、俺小学校の頃、5年か6年ころだわい。

西沢 あの建物の裏にあるよね。

関 栈橋って言って。

中澤 あれ久保でもらっちゃってさ、それでその中島英ちゃんのところから向こうへいく橋に使っちゃった。そしたら流されちゃった。

西沢 それを、だから、池から土手の上に上がるところから栈橋にしたわけだ。

関 斜めにかついで。

西沢 それは竜王下池のころだね。

関 そう。それで土手へ（ ）工事、これくらいの幅で、ありわさやってさあ女衆が、今でもあの北側の左側のところ、俺の畑へこうに出ている、急にこうなっているところ、あそこからベト（ ）

その頃はあまり（ ）にできなかったが、舌喰池のありわさはトロッコに乗りたくて、遊びいくわけだ。ありわさやってるの見たりしてるっきりで、自分だれやったわけじゃねえ、俺はトロッコ乗りたくて、暇見てちょっと空いたら・・・

西沢 舌喰池も？

中澤 やった。

関 昭和13, 4年だわい。

西沢 それはどういう理由でやったですか？嵩上げしたの？

中澤 嵩上げじゃなくてねえ。

関 （ ）ってあってねえ。

西沢 （ ）か、ああああ。

関 黒板ないかい？ちょっと裏の紙あれば、こういうふうに、なんと言うかなあ、こういうふうに左側の土手があるでしょ、で、今波除け護岸、これくらいの（ ）あるから、波あっても崩れないわけだ、昔は土だったけど、それで波寄ってくるとめた削られて、こういうふうにくぐれちゃうわけ。（波跡がなね）それで、上へ草はえてるから、夏なんか知らないでこうやっていくと下、こうやってくぐれてるから、どっぽーんって落ちるつつうかそんなようなわけだ。それでこう、だんだん減ってくれば、こんどこの土手が危険になるから、めたその落って減ってくるわけだ。これを治すために、底はどのへんかは知らないが、まあここへまたこう土を元通りにこう盛るわけだ。だからこういうふうになってる、欠けたぶんは埋めるために少しでも増やして、そこの方はこういうふうになるけど、この舌喰池のあれはね、幅2メートル位あったなあ最後の最後は。

大口 ほおー

関 斜めだから、だんだん、多少減るから、そのぶんは見越したんだろうけど、あの一今の仏境のあそこにお墓（ ）ちょっとした木生えてることあるでこういうふう

大口 あーあそこうちのお墓なんですよ。1つあるのは。

関 お宅のお墓行く手前のこっちの池の土手が終わって、堰口の前田さんのお墓のところへこう行くときに左側に、池の中のほうに、木があるよね、あのこっちの池の終わりから、今度は下でずーっと行ってお宅のお墓のあのへんのベト、トロッコで積んで、積んであの坂、土手までこう上に押し上げて、土手の上は平らだからね、軽くずーっと持ってきて、おしゃげて、それから、また次のベト持ちにいくわけだ。それで、それ持ってきておしゃげたのを今度はその、ありわさって言って、昔は重機なんてないから、ありわさなんていうのは足で土を固めたわけ。あんな槌なんてあんなものは華奢な松のナマの丸太だから、今よりは重いけど、今、俺の家に残っているのは、あれ終わったあと、競りだか何かでみんな売ってしまったが。借りたから、それじゃいけない、もう少し、生の木じゃ太いし、それから、ただ丸太のところへ柄を刺しただけの杖で、それであの、3人だか4人だかは覚えていないが、隊列組んで、それで二班に分かれるわけ。こういうふう。それで最初のやつは一緒にこうやって、あーどっこい、ってこうやって持って、ありわさーあのよいとこな、って。下ろすわけだね。それで、こうやってそれ担いでこうやって歩くのが踏みつけになるわけ。で、これでみんな一日こうやって叩いて（ ）あの築いたもんじゃないの。踏んで、足でやるのが主力で。それであの、さかえさん教えたのは、アクセントの違いだけど、よいとこな、って言って。そうでない、もうすこし悠長に、どっこい、ありわさーのよいとこな、って。手をこういうふう、後ろの二組、例えば8人ずつ、二組あったとすれば、（ ）先の列がこうやって、下ろすときだけ一緒に後ろの列も一緒に手をこういうふうにして、それでよいとこな、って。そういうふう、二組でやっていたわけ。それで音頭取りが一人、ついていて、幅2メートルくらいのところだから、3人か4人だなあ横に。それで二組がこうやって、間隔を置いたまま、こういうふうに進んでいくわけだ。それで向こう側で着くと、着いたわさあ、と音頭取りがやると、じゃ帰ろかなーって、で、帰るかなーって言ってぐるっと回って、それでまたこっちまで来たらまたこういうに往復で（ ）足で踏むのが主力で・・・

西沢 このあいだ教えてもらったんです。一回教えてもらったことがありますよね、

関 うん
 西沢 ありわさーのよいとこな、なのところで下ろすんでしたっけか。
 関 ああそうそう。
 西沢 あどっこいってやるんでしたっけか。
 関 ああ、こうやるだ。槌持つ前の、
 西沢 槌は左側に持っているんでしたっけか。
 関 ふんふん、だいたい左側だね。あーどっこい、って言って、よいとこなーって言うときは一緒に前列の一緒にこうに、前列がよーとこなー、って。
 西沢 落として、こういうふうに
 関 反対にやるわけ。そのときに後列も合わせて、あーどっこいって言って持って、ありわさーのよいとこな、
 西沢 ありわさのときに進むんだね？じゃあね。ありわさで。
 関 そうそう。
 西沢 ありわさーのよいとこはどっこいってやって、違うか。
 関 ありわさーのよいとこなーって。
 西沢 はーどっこい。
 関 な、って下ろすときに後ろの班は、その音頭で手をこうやって後ろへやるわけだ。そうしてこうやって持って、上げて、2歩くらいで、下ろす。それで、またこういうふうに、手を必ず半分は私みたいなことやって、、、
 西沢 ありわさーの
 関 そんなに歩かないぞ。2歩くらい。はあどっこい。ありわさーのよいとこな、ありわさーのよいとこな、
 西沢 あどっこい、あどっこい、
 関 ありわさーのよいとこな
 西沢 あどっこい、ありわさーのよいとこな、あどっこい・・・
 西沢 ありわさーのよいとこな、
 関 そんなに歩かないよ（笑）
 西沢 あどっこい
 関 その時はまだ手をこうやっているだよ、こっちは柄を持ってるから。ありわさーのよいとこな。な、のときは下ろしちゃってるくらいのもんだわい。
 西沢 ありわさーのよいとこな、ありわさーのよいとこな、はどっこい、
 関 それでさかえさんが教えたのは「よいとこな」が「よーいとこなー」って少し伸ばさなきゃ。まだ仕事だから。
 西沢 なでどっこいだ。
 関 ありわさーのよいとこなー
 塩入 それをずっと続けるんですか？
 関 うん、半日じゅうやってるだ。いちにち。足でとにかく踏むだから。それで固くなってくると、新しいの、トロッコで乗ってきて、こういうふうの下ろすわけだ。それで、それをならして、あっちのほうへ行ったら次こっちのほう、ならしてるとまたこっちのほうへ帰ってくるわけだ。長さ、30メートルくらいのところじゃないかな。こういうふうに二組で、こうじゃないかな。こういうふうに2組で、行って、そのまま着いたわさーって言うと帰ろかなーって言ってぐるっと回って。その音頭取りが上手だった。たまおさん上手だっけ。（ ）が良かった。お昼になると空いたわさあなんつって、腹減ると、やるわけだ。
 塩入 もう一度節を教えて下さい。よくわからなくて。
 中澤 ありわさーのよいとこな
 塩入 その、どういうふうに行くのかが。2回3回とそれが続くわけでしょ。
 関 ありわさーのよいとこなー、あどっこい
 西沢 あどっこいといくわけだ。ありわさーのよいとこな、
 中澤 そんなに歩いちゃいけないで。
 関 そんなに歩いちゃ…。土を踏むんだから。
 大口 どんどん、と固めるわけだ。
 塩入 ワン・ツー・ワン・ツー・でやるとすれば、（手拍子）

西沢 ありわさー、このときに歩いていなきゃいけないかい？

関 ん？ あーどっこい、ありわさーのよいとこな、だいたい2歩しか歩かないよ。

塩入 ちょっとリズムがわからない。もう一度やってみて、いち、にい、いち、にいで

関 ありわさーのよいとこな、

西沢 ありわさーの、、、はどっこい、、、

塩入 恒行さん、このテンポに乗ってもらわなくちゃいけない。（手拍子）

関 そんなに歩かないよ

塩入 ワンツーワンツーワンツーワンツー

中澤 そんなに歩いていっちゃいけないよ

関 足で土踏むだからね、

西沢 よいとこな、、、だ

塩入 それじゃあ遅すぎるよ

関 ありわさーのよいとこな、はいどっこい、

塩入 関さん、それ2回3回と今の節もう1回続けてみて。今の節をそのまま。

関 ありわさーのよいとこな、はいどっこい、はいどっこいというのは後ろの列が声をかけるんだ。はどっこいって。前列の班は「よいとこなー」とすると後ろの列が「あーどっこい」っていくわけだ。一緒にこうやって踊っているんだ。あどっこい、ありわさーのよいとこな、

塩入 なるほどなるほど

西沢 ちょっと訓練しなきゃいけないな

関 あまり硬くならないで、踊り踊るような感じで。槌なんてあんなもの、ただ持ってるつうわけで、槌で固めるじゃなくて足で固めるのが主力なんだから。だから大勢の人が寄って、やっているわけ。

西沢 ヨコジって、いう理由は、横っ腹で打つ意味ですね。

関 そうそう、

中澤 うちにあるよ、2つばか。

関 あれ、あと、終わったあと、競りか何かで売るだね。それからマイバラって言ってこんくらい、俺も金井、女神線工事やったときは自分で作って、このくらいの厚さの板のところへ柄をつけてさ、荷車で上からベト運んできておしやげて、（ ）上は平らなところあるが、（ ）横っ腹こうやって叩いて（ ）で、仕上がったあと、米俵を壊して、こうみんな貼って、それでこのくらいな四角な、一寸5分角くらいな杭（ ）で作ったの、こういうふうになんだ、きれいに仕上げてあったよ。米俵ここへ並べてるでしょ、こういうふうにな、そうすると、ここへ杭打って、こういうふうになんだ、縄かけて、古の米俵を開いて、だから2年くらい綺麗にまだ、俺、夏なんか水泳にいくわけだ、そうしてもまだ俵ちゃんと杭も残っていたなあ。そのうち自然に腐ってなくなっちゃって草生えてくるけど。

西沢 ふーん、そうか、俵ね。

関 仕上げね。ベト、崩れないように。あのへんは水溜まらないところだけだ。特に、下は水の中へ入っちゃうから作ったってすぐ腐っちゃうけど、とにかく波除け護岸だから。今はコンクリのあいつの代わりにありわさで中へ貼り付けたわけ。横にただこうやって貼り付けるんじゃなくて、ある程度幅をもって踏んで、あと横腹を叩いて、とにかくベト運びはトロッコで大変だったんだ。それと、ちょうど、そのあとかなあ、今のニュータウンのあそこの掘割、あれこうやって金井のバス停のところまで土みんなトロッコで運んだわけだ。そのトロッコ夕方、みんな仕舞ったあと近いから、乗るわけ。ところがこんな顔で放すとピーっとものすごいスピードで行くから、危ないから、ベト積んでるから特にスピードついちゃうから。トロッコにブレーキというのあってね、ハゼの足っくらいのやつで、乗ってて、こうやって引っ張って後ろへぐっと、あのトロッコの車輪のところに板がくっついて、そうやって、その加減でブレーキを、途中で止めたきゃ止めて、ベト上げちゃ、また押し上げて、それでそのトロッコ乗りたければ夕方、帰っちゃったあと行くわけ。それで引いては……。だから、あれは、舌喰池のありわさ済んで、だと思ったがなあ。学校の学年の……。

西沢 掘割が果たしてできた日にちということ？

中澤 ほら、あの掘割あるに、

関 あれさ、みんなベト掘って、トロッコでベト運んだもんだ、こっちへ。

西沢 あれ道を作るために掘ったということ？

関 そう

西沢 何年頃のはなしですかね？

関 舌喰池のありわさが11、2年、だから、ちょうどその頃か、舌喰池終わってからの頃かなあ。

中澤 昭和になって

関 覚えてる。どっちにしても昭和。

西沢 戦前の話ですね？

関 そう

西沢 昭和11年12年頃、はあ。

関 今でもあの、小池せいちゃんのお墓の上にまだ旧道の跡形残ってる。

中澤 ありますね。あれよりずっとこっちの北側のほう。

西沢 北側のほう？旧道があるの？

関 昔の峠道がある。

西沢 掘割よりかも北側にね。

関 いや、南。

中澤 あそこに大日如来のある、お墓あるね、

関 お墓ある

西沢 あそこらへんに旧道があったの？

関 もっとこっち。あのね、今でもまだあそこに池がある。下は埋めちゃったけど、まだ上に池があるけど、池の北側へ出る。だから、道、掘割やったから道が途切れちゃってるわけ。

塩入 掘割のために道が途切れちゃったと。

中澤 まあここに道あったとよく話には聞いたけどね。俺のお墓、中澤のお墓があそこに、

関 ああ、そうだ。あれからじきだけどね。そうだ、中澤のお墓よりも北側だ。それで今のニュータウンで出来ちゃったが、終わりの方に、あの、小池せいちゃんのお墓、知らなきゃ話にならないが、あの上のところで出るんだ。それで、道が終わっているんだ。途切れちゃってる。

中澤 いま立派なお墓になってる。

塩入 こんど勘ちゃんに教えてもらおう。歩いて連れて行ってもらうだ。今の旧道のへんとか。連れてって教えてもらわなきゃ覚えられない。

中澤 そうだね、また教えるわい。

関 それから、あと、中澤堰と手塚バイパス。手塚バイパスの松本へ抜ける道、これ、あの塩田町合併するときの条件で、手塚の要望事項として、内村へ出るトンネルを作ったという要望事項は出した。ところが時の、県の職員に富士山の室賀弥三郎という、県の職員がいて、それが県にいたから、そっちのほうがちっと運動強くて。それと、工事費があっちのほうが安上がりだった。こっちいくと、工事費がもっとかかる。平井寺トンネルのほうが工事費はかからないし。トンネルそのものはかかるにしても、その兩岸の取り付けが、安上がりで、こっちへもってくると、とても、そのトンネル自体よりも取付道路のほうがとんと金かかると、難工事になるから。それもあったけども。だから、むこう、平井寺トンネルへいっちゃったわけ。要望は出したんだよ。塩田町合併する条件で。

中澤 じゃああのところは、そのトンネルのところへつなげるつもりで・・・

関 いえ、それとは違っただな。それとは違ってね、小池実さんが町会議員のときに、その、バイパスばかりではなく、幹線道路の件で、土地はともかくあるから。手塚へもってきたらどうだということで、この人が声をかけてくれて、だからその、松本へ抜けるバイパスに、その後で使ってもいいけども、その当時は、それほどではなかったな。けども、そういう話はあったわけ。松本へ抜けるトンネル作ったらどうだろう、と。

西沢 今の農免道路？

関 そう、今の農免道路。

西沢 それで、あの農免道路は舌喰池の東側を通して、県道へぶつける構想はあった。

関 そのような構想はあったけども、計画と予算の関係で、早く作っちゃえということで。だから向こうだけ、つながっていない感じだけどね。

塩入 あの区間だけ不自然に広い、良い道になっている。

関 こっちは圃場整備のまんまのやつ。

関 ああ、それと、これから若い人たちに要望してもらいたいと思うだが、日本一雨量が少ない場所だというような話は聞いている。けども、実際にははっきりわからないから、塩田西小学

校の近辺へ、気象庁の本格的な雨量計を作って、設置してもらえればいいかなあと思っている。あんな高いところに住んでいるとね、こう雨降るときに、こうやって見ていると上田のあっちのほう降ったって、おらは降らないこと幾度もあるし。それから降ってきても保谷の辺まで降ってもこっちにはこないし、それからこっちは東塩田のほう夕立通っても下之郷あってもこっちは降らない。こっちは是非是非その、女神山、男神のあっちのほうから来る雨でなければ。男神のほうも、どっちかといえば室賀のほうへ通り過ぎていっちゃって、どうも別所、山田、手塚、野倉、いちばん降らないなあと思って見てるが。

中澤 別所の雨もこっちの舞田へ行っちゃうでね。

関 そうそう。

塩入 舞田の信号のところ、そこは降っているのにこっちは降ってないなんてことあるもんね。

関 だからね、本格的な、気象庁の雨量計でなければ。日本一雨少ないことを実証してもらえないからさ。

中澤 今、無人の雨量計、沢山の池にはつけてあるね。でもあれ、使ってるだかい？

塩入 公式のものが欲しいよね。

関 この雨で沢山満水になったかい？このあいだ、誰っけな、行ってみてきたが、あと1mばかりで満水になるわい。

中澤 雪降ったから。

大口 不動池はいっぱい、って書いてありましたね。

中澤 舌喰池もいっぱいだね。

中澤 その新堰というのは、むかし樋ノ口までしか来てなかったという話だけど、そこから下、金井のあそこ、トンネル掘って、山田まで持っていったと。そういうことは関さん子供の頃ですか？もっと前？

関 えらい子供の頃ではないよ。終戦の頃までかかったがね。あの、金井のあの隧道は、赤羽たいしろうさん、がほとんど一人で掘っちゃった。

塩入 赤羽、なにさん？

中澤 樋の口にお墓がある。

関 堰口の勅使川原澄夫くんの、知ってる？

大口 ああ同級生。

関 あの親父さんの弟。だから叔父さんになるだよ。

西沢 ここに写真があるですよ。ここに。写真で見る手塚誌。

関 ああこれこれ。

西沢 これ、金井の隧道を掘ろうとしているところですか？

関 昭和19年だから、そうだ、たいしろうさん

西沢 これが畑中よしのぶさんで、これが、赤羽たいしろうさんじゃないですか？

関 そうそう。

西沢 若い頃だね。

関 そうだ。

西沢 これが樋口いさむさんだと。

関 うん、そうだ、そうだ。

西沢 これは金井の・・

関 金井だな、北口の

西沢 金井の北口のところか、出口のところだね。

西沢 これは昭和19年頃の写真だってあるんだけど、終戦のときですね？

関 あのね、あの隧道は19年には仕上がったけれど、付帯工事は終戦のときまでやっていたわい。いろいろな付帯工事。

西沢 それは、終戦・・・2年位かけたんですかね、工事は。

関 それくらいやったではないかい。

西沢 それは、あそこの、いま山田が管理している範囲のへんから、やったんですかね。このときの範囲というのは。どこからどこまでやったんだろう。

中澤 宮の狭間から下でしょう。

西沢 宮の狭間から、下。

関 そうそう。樋ノ口のね。あれから、あそこで新堰は下久保で終わっていたわけだ。昔は樋ノ口
っきりの堰だったわい。

西沢 そこから上流の新堰はいつ作られたんですかね？

中澤 あれは江戸時代。

関 あれは古いわい。

西沢 江戸時代？沢山池の前から。

関 前。前。

中澤 山堀り抜いてね。

西沢 あ、中山のところくるやつだね。江戸時代にできた？はあ、そう。

関 俺、江戸時代かそのへんまでは知らないが、とにかく昔からあった。それで、宮の間までは樋
ノ口の管理で。それで沢山ができて、いよいよその測量などの結果、山田まで行かれるという
ことになって。

中澤 沢山の水を持っていく関係で、延ばしたんだね。

西沢 そうか、それじゃあ昔はコンクリートなんかなかった時代は、どうやって水連れてきただかな。
あそこは。土水路だったんですか？

関 土水路。鼠の穴やなんかはみんな、粘土持っていっちゃ詰めたんだず。

西沢 そういうことか。一部は岩を削ったわけだね。全部が岩じゃないもんね。中山からおりてくる
沢をわたるときには木の水路でも何かやったのかね。

関 そうだと思うね。コンクリねえだからね。昭和15年、16年、その頃ではないかい

西沢 そう、写真借りたところの裏書きに昭和19年撮影と書いてある。

中澤 終戦の前の年だ。

関 昭和18年、高年卒業した時に、沢山の、土井の（ ）山のところに碑があるね、大きい碑。
あの土台、山下義一さんが請けて、俺と中島明さんと、原田きくお君と、4人で、その碑を建
てるから、ここのところ整地しろと。岩が出ればそこまで良いという。それで掘ってったら
（こび）が出てきたわけ。ほれ出たどおい、つうわけで。請けただか何かで、俺は知らなかつ
たが、いい日当になるぞつつうわえで。検査してもらったが、いいやこんなもの、岩ではない、
「こび」だからダメだつつうわい。業が煮えたつつうわけで、帰り際に、沢山の池の土手、
セメント注入つつうのやっていた、機械持ってきて、県で。業が煮えたもんで、何か悪戯して
帰っていかざあつつうわけで。そうかってえらい変な悪戯はできない。お茶飲む急須のヘソ叩
いてひっ欠いて帰ってきたことあった（笑）。それから、またあと掘って、こんどは本当の岩
だって言って仕上げたわけだが。あのときに、ふつう、日当50銭くらいだったななあ。

塩入 水路の話は良いんですね。雨の少ないところだから。水で苦労してきたんだ。

中澤 さっきの中澤というの、俺も自分の名前と重なって、あれだけど、よく耳にするけどね、今
はないんですよ。

関 ねえだ。あの、いま丁度、金井へ行く道路と、光人くんの家のちょうど中間くらいのへんに、
分かれ目があって、そこから上へ（ ）持っていけないから斜めに、横へ持っていったわけ
だ。それでいま、右側がいちばん上の田、金井へ向かって、いちばん右側の田の、あの上のと
ころ、そこまで水路が行っていたわけ。そこまでと、取り入れ口頭首口の間がとても勾配が悪
くて、まあずドロ溜まって、堰払いに苦労したわい。

中澤 あ、金沢ひろおさんの田んぼかね。あの、うなぎの寝床のような。

関 そう。あの田んぼの上のところずーっと行ってね、それで終わって、今、上にあそこに畑下へ
まわると、あそこに、昔から（ ）地帯で、今ではここに、まだ、回り場と言って（ ）
何もなかったし、碑もないけれど、広場があって、昔じゃんぼんの周り場になっていて、それ
で、それから行って、まっすぐ、少し、こう落ちるように下って、今の、金井のバス停のへん
出て、あれからバス停から向こう側は昔からの堰だわい。それで、その下るところから少しま
た上へ登っていったところに森山があって、あれ10メートルくらいあるかなあ、少し高い、丸
坊主の丘があって、そのところのへこみが勾配なくて、やっぱし水がうまく流れなくて苦労し
たところだけだね。それで回って行って、こっちのまたバス停の、あそこのところでまた一緒
になっただけだね。それで、昔、どじょう（ ）あのへんに泥溜められるところにドジョウ
が多くて、よくすくいに行ったもんだわい。

中澤 ああ、あんなほう通っていただない。

関 圃場整備でぜんぶなくなっちゃったがね。今でも同じけども、中澤堰、ああそうだ、一の堰から上、金井へ行く道路から上は、一の堰の水が入らないわけだよね、寺の方からこのように。昔の中澤堰の人たちはみんな昔から一の堰なんか使えなかったから。橋ふたつあったわけ。一の堰の橋と、そのまた上に中澤の、上の堰のところに石橋があって、ホテルを取りに行くときはその橋のところにみんな集まっては、あそこで騒いで、それで大池の下の、今の大口さんちの水車小屋があって、そこにまた、ホテルがえらいまーで、いっちゃん居たところだけどね。

中澤 和子のへん？

関 いや、今の、鯉取りの、あそこに鯉やった時の水槽、あのちょっと下の土地の田んぼの、あそこから水をとって、それで水車小屋があったわけ。その水車小屋の水と、横堰と言って、延長が、堰口のほうへいく堰になっていたわけ。

中澤 あ、あそこの、荒井光弘さんの田んぼの、あのへんだね。

関 そうだね、光弘さんの、

塩入 田んぼと言われてもわからない・・・

関 ああそうか。

中澤 荒井力さんの裏のところ。

関 力さんの裏のあそこカーブから、でも、どのくらいかかるかな。あそこに（ ）君のハゼ小屋があるが、あれよりはちょっと上だわな。その、水車小屋があったところ。

中澤 いま三角の田んぼになっちゃってるけどね。

関 あのカーブを広げてもらいたいなあ。

中澤 本当だね。

関 あのカーブは危ない。今は俺車乗らないけどどうってことないけどさ。あれは拡幅してもらいたいところだ。

西沢 沢山池のね、築造工事のことが（ ）ちょっと私書かせてもらっているんだけど、この写真があったんですよ。この写真がね。これ、このいちばん前に写っている人物が、誰かと思って俺、ずっと気になっていただけど、やっと判りました。竹下重政さんです。

関 ほう。

中澤 村長やった人ね。

西沢 あ、大陸行っても帰って来られなかった人ね。

関 うん、開拓団の団長で、そのまんまだっけ。

西沢 なぜそれが判ったかという、旧西塩田会館で、新町の西塩田会館のところにあった写真を見て判った。あ、この人だと思って。今もあるでしょ、新しい新町の…

中澤 いや、どっか取り外してしまって、保管してあるだけどね。

西沢 うちの親父も写っているけどね。そこにね。赤羽タイゾウさんも写ってるわい、そこ。

関 あ、そうか、しげまささん、そうだ、重政さん、村長やめてそこへ行って終わりだった。

西沢 この写真は沢山池の袖をね、食い込ませて、食い込ませてあの、そこに粘性土を詰めるためのくさびを、両側に食い込ませて。

関 そう、水圧を防ぐために、横を少し深く掘って、食い込ますわけ。

西沢 それで、それやったときの写真です、これ。キックハンマーとか、そういうのがここに写っていますよね。

関 今の大きいダムだって、みんなイバラが入っているよね。ただおっつけたっきりではいつ取れちゃうかわからないから、食い込ましてある。

西沢 それやっていると時の写真ですね、これね、

関 昔の沢山、お宅の温泉の前に、松尾与平さんたちがやっていたお店、入ったことはないけど、見て知ってる。

中澤 池の中にあった。

関 今の橋の、一本橋が建ってね、産川から。そこに建物あって。それ、ちょうど池の底になるから一つ一つで、水圧を考慮してコンクリで覆いをして、そこから出たお湯を今の隧道下の、隧道の中へ引っ張ってきたわけ。ところが水圧で、だんだんだんだん、水が混じって、ぬるくなってきて、それと、まああの、隧道の中をパイプで持って来た、パイプが傷んで、めた漏っちゃって。こっち来のお湯が少なくなる、しかもぬるくなる、ダメで、一旦やめちゃったわけ。で、お宅が今度はまた始めたわけだが。

中澤 なんか冬になると、その水圧だかが詰まって、あの、そんな話を聞いた。

関 今回の紺屋村の、そこに、ちとさんの古い家があるに。あれが、お宅の家の温泉宿だっけな。それで、あの、出来上がった頃の、もっと立派な家だったから、2、3回行ったけども、一時賑やかだったで。

中澤 はあ

西沢 今の、余水吐のトンネルのところを通したわけ？

関 いや、下の。ちょうど、あの、底樋の、横っちょあたりに、お湯が出ていたわけだ。それで、そこへ水压を考慮したけれども、その、コンクリでうまくくるんで、パイプでお湯を取って。トンネルの中の天井をずっと吊り下げて、トンネルの中からパイプがでてきた。ところが、水压でぬるくなって、温水が水压でぬるくなって、そこへ差水やなんかでめたぬるくなる、パイプ傷んでくるってわけ。

西沢 引き継ぐだけで、長続きはしなかったわけだ。

中澤 そうだね。俺聞いているのはね、戦争で物資がなくなっちゃって、ということ saying いたよね。

関 そういうこともあるわな。それからじきにダメになる戦争。18年から始まって、今の俺のちょうど小学校終わる、へえ小学校の高学年からお国のため、お国のためにとって言って、勉強なんかそんな教わらないで、学校行っていたんだから。とにかく一番は食糧増産。それと兵隊さんが足りないから一般国民は産めよ増やせよでめた子供作れってわけ。

一同 笑

中澤 舌喰池の中に田んぼをつくったのもその頃ですか。

関 そう。それは食料なくて、舌喰池の今の、何枚だろうなあ、枚数にすれば、15から6枚田をつくった。

大口 いこいの広場の・・・そのへん。へえー

関 それで、戦前は知らないが、戦後、年貢徴収して、自治会で年貢、別扱いで、別の帳面で会計報告しただけ。だんだんこんどは作り手がなくなって、最後には（ ）さんが鯉飼うようになって、鯉やりながら自分がぜんぶ借りて、作っていた。ところが、ハゼかけたって、鴨が来て夜、カモに食われたりして、めた収量減ってきて。

中澤 今はまだ、土手の跡なんかは残っているでない。埋めたときのさ。埋める前は残ってたで。

関 こんどは、その田んぼの下のベトをみんなバックホーでこっちへ上げちゃって、今の芝の広場にしたいけど、あそこずーっと、田んぼえらいあった。だから満水にはしなかったわけ。米を作るために。

一同 なるほどね。

西沢 これはどういうときの写真ですかね？これ、舌喰池の。

関 ああこれ舌喰池ね。田んぼを作っているとき。

西沢 これが、田んぼを作ろうとしているとき？

関 作っているところ。いま。翼賛壮年団が。

西沢 戦争中の話？

関 昭和20年以前だろう。今の、食料増産するために、この、これが仏境で、ここに大口君のお墓が。

大口 ああーそうですね。

関 ここのところ何枚も田を作ってあるんだよ。壮年団が出てやってもらった。

西沢 これは、このとき初めて田んぼの形にしたっていうことですか。

関 そうそう。田んぼを、米ではなくて、田の形を作っている写真。

西沢 だから、それまではただの草地だったんですかね。

関 （??）だから水たまったって、これくらいしかたまっていないわけだ。それで、草生えてるから。そこはスケートの本場でね。（??）草の代わりになって、薄氷でも割れないんだよ。じじじじーって、（??）で絡んでるから。それでこんな薄い氷の上へ行くと、じーっと氷の（?）が下がって、ピピーッと落としながら下がっていくわけ。ところが割れないんだ。草とみんな繋がっているから。それが面白くて。しまいには、そこら少し掘ったりして、びしゃびしゃになったりした。沈むようなことないんだから。

西沢 （??）弾力性があるわけだね。

関 何しろ米作れるところはみんな、そうやって米作った。他は大豆作ったり芋作ったりして。

中澤 芋作ってたね。あの道の、ここらのところも作ったんじゃないかな。

関 何しろ学校行っても勉強ではなく、道の端掘って、大豆撒いたりしていた。男はとにかく兵隊に連れて行ってしまうんだから。手前、人口少ないのに手広く広げたんだから。南方の方へゴム欲しいっていうわけで行った。

中澤 何か他の話、蚕ね、今も山へ行くと、山の中にこんな太い桑の木が生えてることがあるんだけど、相当山の奥まで桑畑作っていたんではないかと思うんだけど。

関 ほとんど養蚕農家だったけど、うちは割合大きい養蚕農家だったから。うちの畑でなから間に合ったが、足りない人はみんな、そういうところ開墾して植えたり、それから夏場なんかは山桑と言って、自分が作ってなくても生えてくる自然の昔の桑があるところを知っていて、そこへ行って採ってきたものだ。上のおっさんなんか、一日がかりで、夕方は早く帰ってきたけれど、山桑いっぱい採ってきて、それであの、今はいっぱいいるけど、キスが山の方にいかなきゃいなかったわけだ。ところがおっさん、山桑取りにいつては帰り、おみやげにキスを採ってくるわけ。それでもらって飼ったり。

塩入 キスって何？

関 キリギリス・・・

塩入 キリギリスか（笑）言われたら思い出すわ。キスキスって言ってた。

関 去年ほとんどいなかったが、それまでは土手にはいっぱい鳴いていたが、去年は鳴かなかった。

塩入 私知りたかったのは、ここの通りが昔、手塚銀座だと呼ばれていた頃があったとかで、いろんな商店がいろいろあったということを聞いているが、何屋さんが何処にあったのかということがまとまった資料がなくて。

関 今の亀屋、あれは昔から亀屋で、豆腐屋だった。そこから下ってきて、上野さんの家が清水屋といって、俺が覚えたときはもうタバコしか売ってなかったが、その昔は何か他にも少し売っていただな。

塩入 清水屋さんという屋号だったんですね。

関 上野澄子さんち？

中澤 今の2階建ての。

関 それで、それからあと、直平さんの庭のあそこのところで、清水屋がやめてから、別の人が、あそこでタバコ売ってた。

塩入 清水屋さんがやめたあとに。

中澤 横山弥太郎さん・・・

関 弥太郎さんかな。

関 それから下ってきて、今の西沢商店のあそこが、長屋があって、その長屋で、建物は知ってるけど、我が覚えてから商売している人はいなかったが、長屋があったわなあ。

塩入 タバコ屋って、資格がなきゃできないんでしょ、何か。

中澤 当時は、資格なんて無かったじゃない？

関 知らねえが、ただタバコは専売品だったから。

塩入 清水屋さんがやめたあとに、隣の家で専売の免許が横に動いてきて。

関 そうだ思うがなあ。それから、あと、ずっとなくて、手塚バス停のこっちがわの、てつさんの土地だが、あそこの学校の方へ行く直線道路に、一の堰のすぐ東側に、紺屋村の中澤小吉さんの弟、あっこで餅屋やっていた、餅屋。で、その上が、婆様の店だって俺が言っていた、今はあの、山極明くんが庭先作った小屋、あそこに婆さんひとりで、お菓子、駄菓子と、駄菓子とちょっとした学用品を売ってたわなあ。それで、その、婆さん一人でやってるだけでも、ちょっと今では悪いことしたなあって思うけど、あの、くじびきって言って、新聞紙で作った袋があって、その中に何か入ってるわけ。それで、1銭だか2銭で、自分でこうやって掴んでみて、なから好きなやつをこういうふうにしてその袋を（10くらい）釣る下げていたわけだなあ。それで自分でこうやってこうやって1銭ぐらいでひくわけ。中に何入ってるか判らねえが、ほとんどおもちゃだったけど、それが表の障子あけたとこでやって、こっちの玄関から入ったところに、こういった斜めの格子のところに、今で言えば、100円くらいの生菓子や、ガラのふたがこういうふうにあって、持ち上げて買ったわけだ。ところが、あの、まあ俺より2級上のおっさんが、当時精米所がなくて、舞田のかんばらと言って、いま中村自動車の向かいのところに、かんばらっていう精米所があって。

塩入 ああ、あのぶっ壊れた家みたいなやつ？

関 あれより、ちょっと。いま壊しちゃって無いが。そこに精米所があって、それで、リヤカーで精米へ行くときは、おい精米行くぞ、乗れや、で俺が乗せてもらうわけ。それで、早くくじを引け、おいと言って、それで、ばあさんがついて、俺がくじをひいている間に先生がこうやって菓子で

大口 連携プレーですね。

関 頂戴してね、ありがとうーって行っちゃうわけだ。それで行きがけに中澤瓦屋さんのあのへんのところで、もらった菓子食べて、その代わり帰り、こんどは米積んでるやつだから、リヤカー押さなくてはいけないわけ。そのために連れて行くんだから。もうしょっちゅうくらいかっぱらっていたが、バアさん儲からなかっただろうなあ。

一同 笑

関 それで店はそれだけだったかな。戦後、今の倉沢まさのり君のこっちがわのところに空き家がある。堰口の、箱田さん所有の無人の小屋が。あそこのところに戦後、床屋ができてさ。

中澤 ああ原田床屋。

関 その床屋さんもやめちゃって。

西沢 あの床屋よく行った。

中澤 俺も行った。

西沢 やってもらっている間に具合良くて寝ちゃって。

関 あの床屋の爺さんがさあ、娘ももらったばかり雇っただかして来た。それが五加の駅の東側の床屋にいた娘で、その傍に俺の乳母っこがいたわけ。それで俺もそっち、乳母っここところへときどき行っていたから。その娘を知っているようになって、こっち来たからと言われ、じゃあこんど来るよと言って。2回くらい行ったな、床屋へ。そしたらその、爺さんが、その娘のところに手を出して、娘嫌だっていうわけで、出ていっちゃったな。それでだんだんダメになって終わっちゃった。

一同 笑

関 その前に、今の、滝沢しょうちゃん、あの家が、昔の斎藤重太郎さんと言って、村長さんやって、全盛時代のとき、あっちの旧道のほうでも店をやってたけど、今の滝沢しょうちゃんのあそこで、新しく家作った、あそこで商店やってた。だけど倒産してしまって、そのあと、前山の、しょうちゃんの親父か、油絞り初めて。このへんで菜種いっぱい作っては持って行って、油絞ってもらった。戦後すぐだよ。

中澤 火事になったよね。

関 そうしたら、学校の学校の北側のたんぼあって、麦の、ちょうど手入れの時期で田へ行っていたら火事だっていうわけで、見たら真っ黒の煙が出てた。だから田んぼから直接飛んでいった。そしたら手塚のポンプもう到着していて、一緒になって煽ったけれども、

一同 あの昔のポンプ、ここに入っている、使ったんだ。

関 そしたらね、あそこに川があってよかったが。それと、今の兵隊さんに行って、人員が足りなくて。18のときから、もう消防へ強制的に消防へ入れられて、そしたら、入ったばかりの年は八木沢の山田池が決壊するというわけで、何か、半鐘ガンガン鳴って、何しろ飛んでいった。今の話（ ）くずれて、あの、水面よりも高いところだけど、地肌がこう、中にずり落ちちゃったから、出たわけだ。だから、すぐくずれる危険性はなかったけれども、危険信号で、消防で飛んでいったが、あの、「ねこ」っていうやつを広げて貼って。ねこと合わせムシロと二通りあって、ネコっているのは、一番古いものだよね。あれは手で、編んだもの。それから合わせムシロというのは、このへんでは東前山に名人がいて、それは、片方の耳はしっかりまいて、片側はこのくらいバラで置いて、2枚合わせて、真ん中で、こうやって合わせて、表はきれいで、裏がひげが出ていて。ネコって言って。合わせムシロって言った。合わせムシロ、まあネコとも言ったけど、本名は合わせムシロで。本当のネコって言うのは手で編んだやつで、あれは丈夫なものだっけ。まだ合わせムシロはオラッチに2枚だか3枚ある。

中澤 俺もあるわい。

西沢 ねこもぜんぶ藁でしたか？

関 藁だ。あれはね、こういう縦糸、縄で叩いたもので、手で、こうやってみんな編んでいくわけ。それでときどき、錘かけては機織りと同じようやって、また手で。

西沢 縄になったもので編むわけ？

関 縦糸は手でなった縄で、編んでいくのはね、よく叩いた藁で。それを、このくらいの太さにして、自分でよじりながら、縦のやつこうやって手で組んでいくわけ。叩いた藁だからとても丈夫。だから重かった。機織りと同じ。早く言えば。だから水害のときに、堤防崩れそうだというときに張ってくれば、もう水なんか遮断しちゃうよ。濡れたら持ち上がらない。

西沢 それを張ったわけだ。（　）

塩入 そういのはすぐには使えないから非常のときのために作っておくものなんですか？

関 いや、そうではなくて、農作業に使ったもの。米を田んぼから持ってきたものを干したり。昔は脱穀、いちばん向こうは俺らは古い代だからこの、千歯のあれはやらないが、足踏みから始まったけども、足踏みで特に元気よく踏んでガーってやると穂がちぎれちゃうわけだ。そういうのを一旦田でフルイにかけて、それで下は（　）それはその上の穂の（　）ちぎれたものをみんな別のかまへ入れておいて、うちの庭へ持ってきて干すわけ。それで乾いたところまた叩いて、モミにして、今度はそのモミをうちで石臼でこうやって、粳摺りやるわけ、俺っちにまだこんなでかい石臼ある。

塩入 あのでっかい石臼は粳摺りする石臼なんだ、でかいのは。

関 そう

中澤 でかいのはね。

関 粳摺りに使ったり、それからその前は、水車小屋の粉挽きのものもあったし。

中澤 水車小屋はあちこちにあったようだね。

関 金井にも、俺っちの裏の上のところにあった。だから解体したときの水石、このくらいの俺っちにもあるし、それからあの、米つくために、臼よりも深くできないから、底上げと言って、上へ丸く削ったやつをつけて、深さを調整するやつ、ひっかけちゃってるけど、まだある。だから、昔、そんなに水は出ていたのかなあと思うけれども。そういえば竜王湧水の・・・。

塩入 竜王湧水というキーワードもありましたね。

関 あ、いつころから出ているか知らないが、ある日に水がぱたっと止まってしまったということで、それで願海和尚が回ってきたときに祈祷してもらったら出たと。それで金井で、仏頂さまの碑を立ててあるわけ。

塩入 そのときに金100両を和尚さんに積んだとかなんとかという話がメモにあるけれども。

関 それは知らないがなあ。

西沢 古文書にね、山極たかしさん家の古文書にね、そうあるです。

中澤 じゃあお金払ったんだ。

関 願海和尚の碑、あそこの堰口のあるところにもある。そっちの、両方兼ねてか。片方だけか。金井のやつじゃないなあ、それじゃあ。

西沢 あれはだから、その、竜王湧水が出たことによって、有名になったんですよ、願海さんがね。そのあと、山極たかしさん家の、元庄屋の八郎右衛門か、あの人だれに呼ばれて、そこへも来て、それで、こっちへ来るとおとりもちされるもので、なんとか、こっちへ来るのが楽しみだったようですね。

塩入 へえー。

中澤 手塚が良くなっちゃったわけ。

関 今は時代が違うから、えらいこんなこと言えないなあと思ったけれども、昔は4月1日って、竜王様のお祭りって決まってる。4月1日になると、仏頂さまのところにのぼり杵があって、のぼりを1本立てて、それで下池にのぼり杵2本あって、その沢は今はなくなってしまいが金沢しげたけの家の軒下へ預かってもらっていた。のぼりを3本立てて、組じゅうの男衆が竜王へ行って、杉の枝をおろして（　）毎年やっているから、こんな太い木へ縛り付けた横棒があって、そこへおとしてきた青い杉の葉を立てて、ずれないようにところどころ縄で留めたりして、だからもう中は見えなかった。今の四角のいけすあって水出ている。あそこは杉の葉をこうやって分けてこうやって覗かなくては見えなかったよね。下から。

西沢 竜王湧水の水源が？

関 水源。石でこんなにくずれたの。水がたれてくるから、昔から樋があってそこへ水が出ていた。だから俺があそこ廃材、間伐した時の、最後って言ってあの樋俺が自分掘って持っていて、あそこへ伏せてあるが、それももう腐ってしまっているかしれない。

関 それで、だいたい午前中にそれをやってきて、午後は金井の集会場で一杯やって、お祭りをやったわけ。それであの、今のちょうど、今の金井の集会場の、ちょっと手前のへんに、左側に

松の木があって、少し平らな、15 敷けるくらいの平があって、その横に碑が立ったわけ。碑の横につつじと、彼岸桜が北側に立ってて、入り口の右側に、上から流してきた水路が、水が段差がこうやってあって1m くらいのところから下へ落ちて、その落ちたところから、もう埋まってしまうけど、たけとし君の内側に石垣の上を水持って行って、田のほうへ行ってたわけ。それで、あの坂を勾配を上へのぼっていくとき、南へこう、小貝が取れる。昔うんと、こう急な坂で、リヤカーが引っ張っていくのに大変だった。その小貝を採るために、少し奥のほうまで、仏頂さまの碑を寄せて、奥まで入って、左へこういうふうにかーブ、坂が取れるということでそういうふうにしたわけ。だけど坂のところだから、どうしたって坂は坂で、勾配は取れなかったけど。だからその祭は絶えちゃってるけど、今、それとあの、なんだ、何年だろう、森林組合が間伐してくれたあと、片付けにみんな出た。

中澤 あれいつだっけ。箱田悦男さんが自治会長の頃だっけ。

関 その頃だなあ。あのときにさ、組合の採った竹で作ったわけ。あれ、またそれ腐っちゃって。

中澤 腐っちゃった？

関 金井の衆がさ、無理に4月1日でなくてもいいけど丁度いい頃、今そのお祭りやらない代わりに、ちょうど、あの、その頃、養蚕組合のあれで、送迎付きの温泉、日帰り温泉旅行というのが流行っていた頃で、仏頂様のお祭りのかわりに、それやらざああって訳で、毎月1000円ずつ積立をして、その積立は納税部長が集めて、積み立てるようになって訳で。それで、あそこの青木の田沢の上の山の中にできた温泉、日帰りで行ったり、それから佐久の春日温泉へ行ったり、あちこち行った。3年4年続いたが、そのうちに、あまり遠くへ行かれないし、また同じところと言ったらそんなところ行ってきたところだから嫌だというような話が出てきて、だんだん参加者が減っちゃって、じゃあどうしよう、って訳で、騒いで、今の年代人だから、いっそのことやめて、仏頂様のお祭りは組費で、女衆だけにやってもらえやという話になって、それで今、3月の始まりの休日に組費でお昼をどこか、その時の組長さんの都合でとって、女衆だけでちょこっとやって、それで終わり。それからさあ、あんなことじゃダメだが、それがあのだんだん参加者が減ってきて、半分くらいしか集まらないんだよなあ。いっそのこと、昔のまた、仏頂さまのお祭りを復活して、名前はともあれ、こんどは組じゅうで男も女も一緒に出てお昼を食べるように。女衆はお昼の用意で、男衆は公会堂のぐるわ、もう作った後ベト入っちゃって北側の丸いところへ人間歩けないくらいベトが沈んじゃってるだ。そういうところへ土入れたり、それから、今の仏頂さまの碑のあのぐるわへ杭打って、かんたんな垣根を作ったり。手があれば、水源地のところへ行っかんたん竹を木に縛って、杭なんか打たなくても「 」できるから。ちょっと、それっぽいようなことを俺、仏頂さまのお祭りについてという、参考で書いて、コピーしてもらって、組じゅうへ配ってみたけど何の反応もなく。そうかと言って、この時代に、復活しろなんて言えないし。

西沢 仏頂さまのお祭りお祭りというのは、昔はどういうふうに行ったんですか？

関 男衆が出てさ、幟立てて、3本。仏頂さまへ立てたり、それから下池の土手に2本建てて、3本建てた。1本は下仏頂さんの本尊。金井の集会場ができてしまって無いけど、あそこに公園みたいに、広場があって、左側に松の木があって、それで、そこの下が芝生で、つきあたりのところに碑があって、その横に彼岸桜あったりツツジあってちょっとしたミニ公園みたいのところがあつた。その入口のところに幟枠があって、そこへ幟建てた。男衆だけで、朝幟建てたりして、（ ）へ行って、（ ）枝降ろしたりして。ところが公民館建てるために杉みんな切ってしまった。上の方に少しまだヒノキやなんかあるけども、その囲いする枝がないわけ、もう。

西沢 囲いは、あの、サワラの御神木も含めて？

関 含めてやってた。あれの後ろ側から、これくらいの杉の木で、縄で縛って。

西沢 高さは？

関 俺の背丈くらい。毎年枯れたのあるでしょ？ 囲ってあって。またそこへ新しい青いの切ってきて、またおっつけて、囲っていくから、古いのまで合わせるとこんなに暑くなるわけだ。だから、ぐるわ回って歩いても湧水は見えなかった。ところが、今はあっぱっぱ一だから、なんか野生動物来て、荒らされてもいけないから、かんたん竹だけで、杭は打たなくても縄で縛ってやれば、杭なんか打たなくても持つから、やればいいがなあって思うけど。俺が思うだけではダメだ。

西沢 あんまりそのままにしておくと、イノシシでも出てきて水浴びでもあれてしまうと・・・

関 小竜王の左側から水が出ているけど、まっすぐ登っていったところに金沢すぎとさんの植林した畑があって、その角のところにちょっと水がジュークジュークしているところ、イノシシが来て。キノコ採りに行くと、昨夜やったかなあというくらい濁ってあれしてるけど、あっちのほうは行かないけど、こっちのほうはやっているよ。だから、その、野生動物にやられても外されてもいけないから、垣根でも作ればいいがなあ、って。だから昔の竜王様の復活はどうかなあって。

西沢 女性だけやるようになったのは何年頃ですか。

関 何年頃だろうなあ。それは青木の温泉ができたばかりの時だから。

西沢 それは仏頂さんって言ってるの？

関 仏頂様って言っている。金井は。

西沢 あれは仏頂・・・陀羅尼卿の略だね。

関 幟にはね、仏頂なんとか大竜王って。

西沢 その幟はいまどこにあります？

関 知らない。

西沢 それは願海さんに書いてもらったものかね？

関 そうではない。そんなに古いものでは無い。仏頂尊・・・大竜王・・・さいごが大竜王だった。

西沢 竜王下池、竜王上池は昔から手塚で管理してたということですか？

関 いや、昔は金井だけでやってた。義一郎さんが自治会長のときに「水利一元化」、ちょうどその波除護岸が流行ってきた頃、金井だけで波除護岸やるのはとてもじゃないが財政的に困難だという頭があった、義一郎さんにすれば。それで義一郎さんの提案で「水利一元化」を提案したわけ。自治会へ。それで、賛成で、決まっちゃったわけ。だから今は金井の池じゃなくて、もう。けども、どういうふうになっていたか判らないが、昔は金井だけで管理していた。

西沢 作ったのも金井が作ったのかね？

関 わからない。

塩入 金井の人が山田で田んぼを作ることがあると聞きましたが。

中澤 打越のあたり。

関 山田に作っているよ。今は荒らしてあるけど。500 何坪だっけな。山田から来るより近い。直線で行けば 300 メートルくらい。

中澤 あそこへ水を分けて持っていったんですよね。

関 ところが水が少ないから、とてもじゃないが苦勞で。そこへ猪が出るようになり、鹿が出るようになり、俺（関）が辞めちゃったわけ。そしたら（ ）が俺じゃあ作ると言って作ったが、今は荒れている。何年も。あっちのほうに、ぜんぶで 900 坪あって、そのまた山田地積に 500 何坪あって。みんな草ぼうぼうだ。

中澤 けっこう広い田んぼあったんだね。

関 けども大型機械入らないしさ。俺この病気になったのは、その、そういうところのせいなんだよ。まあ正確には、手術して 6 年経つから、70 歳後半から足に痺れがきて、あさじへ行ったら、これは手術しても痺れは取れないという訳。リハビリでもやってみるか？と言うから、何でもいいわい、良いことはやってみるわいと言って。それでは鹿教湯へ一ヶ月入院しろと言われて。それで鹿教湯へあさじの紹介で鹿教湯へ行って一ヶ月入院したわけ。ところがピンピンして歩けるから、医者もそのつもりで診てくれない、注射やるわけでもなんでも無い。午後になると似たような患者集めて、リハビリの広場でマットの上へ寝転がって、足上げる運動をやったり。そのあと、下へ降りて温湿布やったり、それから牽引やったり。午前中はぜんぜん用ないわけ。それから、午前中暇だから、クアハウスへ行っちゃいけないかい？と聞いたら良いと。券買って、一ヶ月間毎日あの、クアハウス行ってプールの中歩いたり泳いだり、熱いお湯に入ったり温いところ入ったりして遊んでた。日曜の日なんか何もないから、いちばん上の段まで歩いて行ってきたりしてね。さもなくともまだピンピンしてたから、そのままいたが、そのうちにだんだん悪くなってきて、脊柱管狭窄症というやつだ。それというのは、山間地だったからもう背負子の名人で、うちから下には田んぼあるけど土地がなく、うちから上だけだったから。背負子でみんな背負って、今の山田地積の田んぼの稲、500 坪みんな背負子でうちのほうまで背負ってきて、それからこっちの金井のほうの 300 坪のも、みんなうちへ背負ってきて、うちの軒下へ積んでおいて、足踏みで脱穀して。何せ機械が入らないから。それと、こんどは養蚕だから、蚕を食わすって。だからこの、骨が、重いものつきり背負って歩いていたか

ら。それで狭窄症になってしまったわけ。まだ狭窄症なら痺れくらいで我慢できるけれども、本なんか買って読んでいたら、排便排尿困難となればもう手術しなければダメだって書いてある。それまで、依田窪病院も行ってみた。そうしたら、こんな遠くまで来る必要はないから、薬出すからそれ飲んでいと言われ、飲んでた。それからあさじにも行ったって、注射やるわけでもない。そのうちにあの、だんだん重くなってきて。今度上田原の飯田ペイン行って、ブロック注射というのをやるわけ。あれはちょっと危険伴うだよな。そのときは気持ちいいけど、やっぱりすぐ元に戻っちゃうわけ。終いには今度、鹿教湯へ行って、鹿教湯病院で専門のブロック注射やってもらっていたが、もう少し集中的にやるから入院してみろという訳で、それで入院してまたブロック注射やったけど、やっぱりダメなんだよな。1回なんかは液漏れちゃって、看護婦本気で飛んで歩いて、何しただったら、酸素吸入だっていう訳、誰のところで聞いたら俺のところだと言うわけ。そうしたら、その、液が漏れて、血圧がうんと下がっちゃった。それで、危険だと言うわけで、俺のところ酸素吸入になって。それで、あの、ブロック注射というのは一時間は寝てなければいけないだよ。注射済んだあと。それで帰ってくるだけでも、そんなくらいやったりしてたがダメで、そのうちに小便出なくなってきた、先生、どうもダメだわ、いよいよ終末になってきたわい、手術しなきゃダメだかしれないね、と言ったら、そうか、それではというわけで、先生が直接自分で、携帯で松本の信大へ電話して、明日、信大へ行けというわけ。鹿教湯へ入院していて、鹿教湯から信大へ行って、そしたら手術前提で、日にち3日ほど出して、この日とこの日は俺だけけど、さもなくば他の先生だと言うから、せっかく先生にお願いすると言って来たから、じゃあこの日で良いよ、4月10日と決めて、それで帰ってきて、2日前に入院して、手術して、すると小便が出ないんだ今度は。もう、それで管で取ってもらったりして、便も出ないんだから。10日ほど経ったらお医者来て、明後日退院しろと言うから、帰りに鹿教湯へまた戻る予定でいたから、直接、家へ帰ることなくまた鹿教湯へ入っちゃったけど、60日入院した。年とともにだんだん、また悪くなってきて、そうかと言って、手術しても、手術の先生も、痺れは手術をしても恐らくとれないよと言われていたんだから。それでも排便排尿はそれで良くなった。けども、だんだんまた悪くなってくるからと思って、たまたま上田原のペインクリニックでブロック注射なんかやってもらったけど、松本の、信大の先生は転勤して松本のほうへ行っちゃったから、松本じゃなくてあづみ野病院か、行っちゃったから、今はいないから、困ったときは飯田ペインへ行くけど、だめだなあ、そのときちょっと良いきりで、歳とともにだんだん、そして薬はないだしさ、ただ痛み止めと血液サラサラの薬だけ飲んでいるきり。血流が悪いから、痺れが取れないのと、それから、その、えらい痛みはないけど、寒さがうんと堪えるんだよな。だから、今でもズボン下2枚穿いて、それで夜寝るときも靴下2枚だ。

塩入 また第2回、第3回と聞く話もあるだろうから、関さんにはお達者でいていただきたい。

中澤 いや、どうも本当に。

関 長い時間だったけど、いい話ができたかわからないが。

中澤 また何か聞きたいことがあればお話してください。いつまでも元気で。

西沢 勉強になりました。

関 手塚で、大正で2番目、そこの市村忠雄さんが1番、その次が俺で、それ大正の生まれは終わりで、昭和元年は6日しかないから、2年から。だから俺のすぐ下には2年で一番早いのは日向今朝重君だ。先生2月だから。それでも生まれは昭和になってる。大正とはうんと違った気がするから。

一同 ありがとうございます。

聞き手 中澤勘介（会長）・西沢恒幸（顧問）・大口信雄・塩入友広

